

SJクイズ

[問題編]



Q1

平成 25 年の自転車乗用中の交通事故死者数を年齢層別にみると、最も多い年齢層は次のうちどれでしょう？

- ① 15 歳以下 ② 16 ～ 24 歳
③ 65 ～ 74 歳 ④ 75 歳以上

Q2

平成 25 年の自転車乗用中の交通事故死者数を損傷部位別にみると、最も多い部位は次のうちどれでしょう？

- ① 頭部 ② 胸部 ③ 腹部 ④ 頸部

Q3

自転車のブレーキは乾燥した平坦路面を 10km/h で走行している時、ブレーキをかけてから何メートル以内で止まれるものでなければなりませんでしょうか？

- ① 3m ② 5m ③ 8m ④ 10m



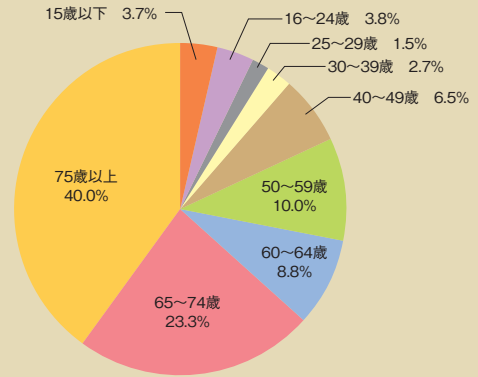
【使用上の注意】

●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業（株）安全運転普及本部 TEL:03 (5412) 1736

Q 1 解答 ④ 75歳以上

<解説>

平成 25 年の自転車乗用中の交通事故死者数（600人）を年齢層別にみると、75歳以上が40.0%と最も多い。65～74歳も23.3%と、高齢者（65歳以上）が6割以上を占めている。高齢者の方々には自分の命を守るためにも自転車の交通ルールを遵守し、見通しの悪い交差点などでは必ず一時停止を行い、左右の安全確認を心がけてほしい。また、ドライバーやライダーは高齢者が乗用している自転車の近くを通る時は、転倒する可能性なども予測し、速度を落とすとともに安全な間隔をとって十分に注意して走行しなければならない。

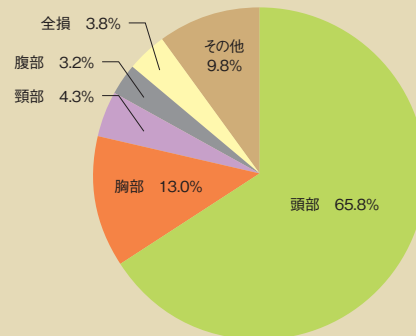


●自転車乗用中の年齢層別死者数（平成25年・構成率）

Q 2 解答 ① 頭部

<解説>

平成25年の自転車乗用中の交通事故死者数を損傷部位別にみると、最も多い部位は頭部であり、3分の2近くを占めている。現在、ヘルメット着用が義務化されている（努力義務）のは13歳未満の子どもだけだが、中学生・高校生、大人も頭部を保護するためにヘルメットを着用することが望ましい。また事故に遭った際、転倒などにより頭部を強打した場合は自分だけで安易な判断をせず、必ず医師の診察を受けることが必要である。



●自転車乗用中の損傷部位別死者数(平成25年・構成率)

Q 3 解答 ① 3m

<解説>

道路交通法施行規則では、乾燥した平坦な乾燥路面において10km/hの時、ブレーキをかけ始めてから3m以内の距離で自転車を停止させる性能を有することと定められている。しかし、実際に目の前に危険が現れても、走行環境や人の認知・判断の時間もあるため、その通りには止まらず、気づいた時には事故に遭っていることもある。さらに雨天時の濡れた路面などでは、停止距離も長くなるので、その時々状況を考慮し、ゆとりを持って早めのブレーキ操作を心がけることが大切である。また、自転車を停止させる時は、まず左ブレーキ（後輪）でスピードを落してから、右ブレーキ（前輪）をやさしくかけて止める方法が安全である。

【使用上の注意】

●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業（株）安全運転普及本部 TEL:03 (5412) 1736